

原水爆禁止長崎大会開催

8月7日から9日にかけて、原水禁世界大会が3年ぶりに長崎（長崎ブリックホール）で開催され、博多地区本部からは井上喜代彦氏（南福岡運転区）に参加していただきました。この大会は、1945年8月6日、9日ー広島・長崎の原爆投下、1954年3月1日、アメリカが太平洋ビキニ環礁でおこなった水爆実験において、日本が3回もの原水爆被害に遭い、その後、核兵器の廃絶を求める「原水爆禁止署名」が全国的に取り組まれたことを背景に開催されるようになりました。1955年8月の広島での第1回大会、翌56年の長崎での第2回大会以降、（コロナ禍を除き）毎年、世界各国の人々と連帯して開催されてきました。ちなみに、博多地区でも8月1日に原水禁の一環として平和行進（警固公園～中比恵公園）が行われ、萩原弘司氏（博多車掌区）＜写真下＞、川崎良秋氏（博多車掌区）の2名に参加していただきました。

「平和」は国境を越えた人類共通の課題であり、過去の惨劇は2度と繰り返してはいけません。国労は、今後も、人間らしく働くための前提となる「平和」を守るため、真摯に運動を続けていきます。

※原水禁長崎大会2022の様子（写真上）は公式HPより抜粋



青年のひとりごと

現在、新型コロナの感染拡大が深刻化しているようですが、一方で、「熱中症」の問題はどうなっているのかと、メディアではあまり報道されず、その偏りに首を傾げるばかりです。ところで、ご存じの方も多いかと思いますが、以前、タンザニア大統領のジョン・マグフリ氏が、コロナの報道に疑問を持ち、裏秘密に調査を行いました。それは、「ヤギ」や「パパイヤ」「自動車ガソリン」等のサンプルを取り、それらに「Elizabeth Ane, 26歳、女性」などの名前を付け、「人間のサンプル」として、研究所でPCR検査を行わせたというもの。すると、事情を知らない研究所は、PCR検査の結果を「陽性」と報告してきたとのこと。この結果を見て、マグフリ氏は「パパイヤでも陽性になる。PCR検査には汚い裏がある」との見解を述べています。いずれにしても、コロナ患者ではないのに患者として扱われている方々が、世の中にはごまんといえるのは容易に想像出来ませぬ。何より、日本においては、国民の大半がワクチンを複数回接種しており、もともとの衛生観念も高く、アルコール消毒、マスクの着用、手洗い、うがいを徹底しているのは誰もが知るところですが、それでコロナの感染者数が世界最高の水準にあるというのはやはりおかしい。当然、こうした中、自分の「判断」でマスクを着けていない方や、ワクチンを打っていない方もいて、本来、それは大いに尊重されるべきことなのですが、今でも、彼らに対して差別的な視線が送られることが少なくはありません。それが、単にメディアが報道する「感染者数」に怯えただけのリテラシーなき「同調圧力」によるものとしたら、もはやそちらの方が問題です。海外では、国の過度な規制に対するデモ活動も頻繁に起きています。「もと暮らし」というのは、良識ある判断に基づき、「個人」で取り戻していくもの。メディアの片面的な報道に縛られる一方で、マスクを着けての熱中症やワクチン接種による発病等のリスク等は度外視され、被害者が出れば、誰も責任を取らず、単に運が悪かったような扱いをされる。これほど出鱈目な話はありません。

○当面する行動

○8月29日（月）12:00～/第265回組織・交通合同対策会議 博多地区本部事務所

○8月30日（火）10:00～/第39回九州本部定期大会 サンメッセ鳥栖